

# 大会準備委員長講演

## 新海誠監督作品の「すずめの戸締り」からみた 東日本大震災のこころの傷

渡部 純夫（東北福祉大学）



### 講演概要

東日本大震災から12年の年月が過ぎ、世間はその事実を忘れたようにすら感じられます。しかし、被災者のこころの中では、いまだ震災が継続中であつたり、あの日以来時間が止まってしまった人もいます。昨年、新海誠監督が「すずめの戸締り」という映画を発表しました。この中で自然災害として東日本大震災を「ミミズ」という名の下に描いております。第55回大会が仙台の東北福祉大学で開催させていただくにあたり、どうしても取り上げなければならないテーマと考えております。

話の柱として、

1. 東日本大震災を振り返る
2. 新海誠監督作品「すずめの戸締り」について
3. 新海誠監督がすずめに託した東日本大震災のこころの傷について
4. どうしたら東北を癒やすことが可能なのか
5. これからの東北の展望について

の5つを取り上げてみたいと思います。

東日本大震災のトラウマ体験から、いまだに抜け出しきれない多くの人にとって、この「すずめの戸締り」の与えるインパクトは少なくはなかったと思います。例えば、福島を考えれば未だに震災は終息しておらず、継続中であります。そのような被災者の思いを心の片隅に忍ばせながら、「すずめの戸締り」とは我々東北の人々や若者の心理的自我の確立にどんな意味をもつことになるのかを考えてみることにしたいと思います。

「すずめの戸締り」は主人公であるすずめが扉を閉めることではなく、こころに傷を負った母親の喪失体験と向き合うことにあるのではなかろうかと考えます。扉を閉めるのではなく、開けることで抑圧してきた喪失体験と向き合うことであると考えられるかと思われまふ。このようなことを、カウンセリングの視点を絡めながら考えてみたいと思います。

## プロフィール

### (現職)

東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科教授・東北福祉大学大学院総合福祉学研究科教授。東北福祉大学学生支援センター長。福祉心理学科学科長。東北福祉大学硬式野球部部長。学校法人梅檀学園評議員。学校法人福聚幼稚園評議員。東北福祉大学後援会代議員。入学者選抜委員会委員長。

### (主な資格等)

臨床心理士。福祉心理士。産業カウンセラー。

### (学会活動、社会活動等)

日本福祉心理学会理事。日本福祉心理士会理事。日本箱庭療法学会・日本ユング心理学会震災 WG 委員。日本臨床心理士会代議員。日本心理臨床学会代議員。日本臨床心理士養成大学院協議会理事。児童養護施設青葉学園評議員。

福島大学附属小学校評議員。福島県警察本部委嘱被害者カウンセラー。

### (主な学歴・職歴)

文教大学人間科学部卒業

筑波大学大学院教育研究科修士課程修了

神奈川県総合リハビリテーションセンターに就職。その後、総合会津中央病院で臨床心理室長として勤務し、会津大学・福島大学・郡山女子大学・山形大学・桜の聖母短大等の非常勤講師を経て、東北福祉大学非常勤講師、専任講師・准教授を経て現職。

### (主な著書)

『福祉の時代の心理学』（共著）・（ぎょうせい）

『高齢者の「こころ」事典』（共著）（中央法規出版社）

『子供の健康』（奥会津書房）

『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』（共著）（八千代出版）

『心理学理論と心理的支援』（共著）（ミネルヴァ書房）

『福祉心理学総説』（共著）（田研出版）

『社会貢献学入門』（共著）（TKK3 大学連携プロジェクト共同テキスト開発委員会）

『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』（編著）（八千代出版）

『福祉心理学』（編著）（ミネルヴァ書房）他